



東京多摩プロバスクラブ

〒206-0034 東京都多摩市鶴牧5-29-10 平田哲郎宅

TEL&FAX 042-338-7022

平成23年7月吉日

横濱プロバスクラブ様

東京多摩プロバスクラブ
会長 大澤 亘

新年度役員改選のご連絡

拝啓 向暑の候、ますますご清栄のこととお慶びを申し上げます。

平素は当クラブに格別のご理解とご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、7月6日の定期総会にて平成23年度の新理事が下記の通り決定致しましたのでお知らせいたします。今後とも宜しくお願い申し上げます。

敬具

理事	会長	大澤	亘
理事	副会長	中村	昭夫
理事	幹事	稲田	興
理事	会計	山田	正司
理事	総務委員会委員長	北村	克彦
理事	研修・親睦委員会委員長	滝川	益男
理事	地域奉仕委員会委員長	西村	政晃
理事	広報委員会委員長	増山	敏夫

監査	(業務監査、会計監査)	鴻池	敬和
----	-------------	----	----

尚、事務局は、従来どおり平田哲郎会員に委嘱しております。

事務局：東京都多摩市鶴牧5-29-10 平田哲郎宅

TEL&FAX 042-338-7022



東京多摩プロバスクラブ

事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧5-29-10 平田宅

TEL&FAX 042-338-7022

平成23年7月8日

横濱プロバスクラブ 様

東京多摩プロバスクラブ
会長 鴻池 敬和

『東京多摩プロバスニュース』ご届けの件

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、当クラブ会報『東京多摩プロバスニュース』第 号の発行の運びとなりましたので同封させて頂きました。ご一読頂ければ幸いです。

『東京多摩プロバスニュース』を通して、皆様との交流の場を拡げ、これからの活動に活かしていきたいと考えております。

忌憚のないご感想・ご意見などお寄せ願えれば幸甚に存じます。

敬具

追申

先般の大塚ご厄介の謝誠の有難うございました。

同封の2冊をご査読頂く方々のお配り頂戴と
させていただきます。宜しくお礼申し上げます。

事務局

一泊研修旅行と「横濱プロバス倶楽部」との
交流

永島仁会員

5月15日～16日にかけて1泊2日の研修旅行を行った。参加者15名うち女性3名で、9時聖蹟桜ヶ丘オーパ横に集合した一行は、貸し切りバスで出発。日曜日ということもあって途中の渋滞もさほどでなく、予定の時刻より早めに横浜桜木町に到着した。

このため「横濱プロバス倶楽部」との懇親を予定した時刻にゆとりが出る。幸い、五月晴れの好天に恵まれていたので、横浜港の一望できる山下公園へ立ち寄った。氷川丸を背景に記念写真撮影、また、庭園のバ



山下公園氷川丸をバックに

ラはちょうど見ごろでこの上なく鮮やかであった。

「横濱プロバス倶楽部」との待ち合わせの横浜中華街関帝廟通り「大新園」へ。

会長加藤武様、会員委員長中村実様、理事森山功様、幹事荻原信吾様の出迎えで一同着席。参加者全員の紹介があり両会長のご挨拶がなされた。

加藤会長様からは10周年の横濱プロバスの歩みと今後の発展の在り方を簡潔に披露され、今後の提携について関係を密にしたいと抱負を述べられた。

鴻池敬和会長は横浜生まれの横浜育ちであることから、一層親密な交流に深めていきたいとの意向が表明され、お互いに友好姉妹関係に発展させたいと話が盛り上がりを見せ、相互に親善訪問を重ねることで



横濱プロバス倶楽部の皆さんと交流

一致した。

次いで中村実会員委員長から横浜の歴史、見どころなど、特に中華街の生い立ちや現在についてユーモアやジョークを交えたレクチャーがあり「大新園」の上海料理を賞味しながら歓談のひと時を過ごした。中華街には天長門、地久門、善隣門、朱雀門の四つの門があり、入る時と出る時にはそれぞれ反対側に出るのが決まりだそうである。また横書きの看板には右から左と、逆の左から右書きの二通りがあるが、前者は台湾系で後者は大陸系だそうである。ところで大新園の前に「天外天」の大きな看板が出ていたが、これはどちらなのかな？

大新園を出て「港の見える丘公園」へ。公園にはバラが咲き誇り大勢の人々が鑑賞していた。横浜学会長中村様のご案内で外人墓地へ。幕末の安政元年に事故死したペリー艦隊の水兵を埋葬したのが始まりだという。墓苑内には幕末から明治にかけて日本の近代化に貢献した多くの人物の墓がある。日本初の新橋、桜木町間の鉄道敷設に当たったモレル、航海術のラムゼ



港の見える丘にて

ーなど有名だ。なかでもポトマック河畔の桜の移植についてスキットモアの貢献が大であったとのことだ。再び港の見える丘公園に戻りご案内をして下さった横濱プロバス倶楽部の役員の方々と再会を約し、別れを惜しみながらバスに乗り込む。

バスは五月晴れに恵まれて、一路箱根小涌谷の金型健保はこね荘へ。新緑に囲まれた立派なホテルである。部屋割に従い旅装を解いてさっそく入湯する。

しばらく休息ののち宴会、宴会場もまことに素晴らしく、壁面には緋鯉の群游する姿が描かれていて見応えがある。程よく酔いがまわるにつけ、楽しい小話からジョークに始まり、東日本大震災、津波、原子力発電所事故など、被災者に思いを致し、国を思い、政治を憂いて談論風発、ついに話は二次会にいたる。

翌朝、朝食後解散となる。